

十月句会 お題「無駄」互選 数字は票数  
4ほとんどが無駄とさとして五十年 ちさと

基弘 幸男 きよな○

見てないがいつもテレビが流れてる 哲子

英二 ひよこ 千楽 アキラ

どうせ死ぬそれを言ったらおしまいよ 英二

郁子○ 千楽○

人生に無駄などないよ皆くすり 純一

広子 郁子 ひよこ○

5何が無駄心の糧と言ってみる ミチ

えいじ 郁子 哲子 ひよこ 千楽

世間体捨てれば楽になりました アキラ

純一 哲子 基弘 きよな 乃り子

6無駄骨に終わり内心ほっとする 正清

えいじ 英二 基弘 健一○ アキラ

食べ放題痩せるサプリに消化薬 健一

郁子 純一○ 乃り子○ ミチ

7犬あくび何時まで続く無駄話 基弘

えいじ○ 幸男○ ミチ○ 義雄

秀10.無駄なこととしては覚える園児たち 基弘

純一 英二○ 哲子○ 健一 きよな

義雄○ アキラ

お題「二」(連記) 谷口ひよこ選

二つ目に手を出しもめる子だくさん えいじ

日本に無駄だとおもう二院制 アキラ

二の酉に熊手百個の票集め 正清

少子化と無縁の時代二部授業 郁子

少子化がなんだオレ達双子ちゃん 千楽

二回目と言ってほんととは十回目 ちさと

二人とこない私の指紋私だけ 乃り子

大御所の二番煎じに座が白け 健一

嬉しいな玉子一ツで黄身二ツ 基弘

記録会今も悔しいあの二等 ミチ

何事も足して二で割る処世術 英二

午前二時心のトゲを抜いている 広子

逢いたいといつも君乗る二両目へ 純一

いち二いちニと歩き始めの愛しい子 哲子

秀 二人三脚苦労重荷をわけあって きよな

軸 大切な家事は二の次趣味の沼 ひよこ

お題「囲む」森里えいじ選

新生児囲むみんなの柔い顔 広子

鶴翼の陣に囲まれ目が泳ぐ 正清

祝われて涙と笑い夫傘寿 哲子

猛暑すぎすぐにストーブ囲む日々 基弘

新築に囲まれそうだ我が所帯 千楽

仔を囲み進むサバンナ群れの知恵 ミチ

輪をつくり気合いを入れてさあ勝負 純一

帰省子とすき焼き囲むお正月 アキラ

平和惚け四方を海に囲まれて アキラ

後夜祭キャンプファイヤー照らす顔 ミチ

戦場に子ら集まって笑える日 乃り子

くるくると返すたこ焼き囲む子等 きよな

古民家も囲炉裏デビューで活気付く 哲子

記念日の数字を囲む赤い丸 ちさと

秀 金婚式小さな鍋に変えました 広子

軸 鍋囲み言いたいことを思いきり えいじ

お題「うやむや」(共選) 田中純一選

きっぱりと答えないのもありかなあ ミチ

うやむやにしておけぬ訳知っている えいじ

とりあえず一本つけて話しましょ 広子

曖昧な返事態度でばれる嘘 きよな

忖度の秘書が裁かれ後は闇 アキラ

もやもやはね除け君と仲直り きよな

当選し禊すんだとうやむやに 基弘

そう言えばそう言ったかな知らんけど 広子

うやむやにさせたくないと言切る えいじ

先輩の妙な意見に生返事 健一

その内に酒でも飲もう十回目 ちさと

写真見てこれ誰だっけ何処だっけ ミチ

うやむやになりがちなのは公約ね ひよこ

不利になり言葉たくみにすりかえる 基弘

秀 ここにきて永い春にも終止符を 哲子

軸 議員数減らす話は何処へやら 純一

お題「うやむや」(共選) 原 広子選

とりあえずありがとうだけ言っておく 正清

その内に酒でも飲もう十回目 ちさと

ゴメンネと言って大体ケリつける 乃り子

うやむやにしてしまうこといい時も 純一

議員数減らす話は何処へやら 純一

曖昧な返事態度でばれる嘘 きよな

ア－ウーで通した首相いた昭和  
先輩の妙な意見に生返事

アキラ  
健一

トランプの裁判無罪放免か  
六十年友との誤解胸にある

郁子  
哲子

その結果どうなっているあのニュース  
付度の秘書が裁かれ後は闇

ひよこ  
アキラ

立替を催促できず十余年  
秀 二百円返してくれと言ひ難く

健一  
英二

軸 そう言えばそう言ったかな知らんけど  
そう言えばそう言ったかな知らんけど

英二  
広子

課題吟 今月の秀句 おめでとうございます

十月句会 お題「無駄」互選

基弘

無駄なこととしては覚える園児たち

お題「二」(連記) 谷口ひよこ選

二人三脚苦労重荷をわけあつて

きよな

お題「囲む」森里えいじ選

金婚式小さな鍋に変えました

広子

お題「うやむや」(共選) 田中純一選

ここにきて永い春にも終止符を

哲子

お題「うやむや」(共選) 原 広子選

二百円返してくれと言ひ難く

英二

自由吟 野々村アキラ選

庭の菊手折つて夫の墓参り

きよな

たまに飲む寝酒の効き目朝元氣

夏物も片付かぬ内ダウン出す

紅葉狩り今年山も色冴えぬ

大谷のシーズン終わり冬に入る

哲子

高齢者百三万は蚊帳の外

風呂長い連れを気遣う歳になり

九州場所推しの力士に熱い声

日帰りで行ってみたい天国へ

あき朋

天国はいつも喜び溢れてる

天の門懺悔なければ入れない

神の愛隣りの人を思いやる

だんだんにどうでもいいとなってきた

えいじ

お墓には長居は無用また来るよ

方言で話す頃には時間です

尊厳のある死を選ぶ人になる

リビングのソファのへこみ指定席

英二

リモコンを手に居眠りの昼下がり

コンビニで首を傾げて白湯を買う

セルフレジ慣れた自分が情けない

ホタルイカ焙って冷えた吟醸酒

広子

正論は言うまい友とコップ酒

山茶花に催促されて庭掃除

わがままに育った幸と不幸せ

総選挙アメの甘さの競い合い

アキラ

松茸はスルー我が家は芋ご飯

値が下がりサンマ連日膳に乗る

マゲ結える頃には力士弱くなる

えっコロナゆっくりしろと天の声

ミチ

愛嬌に騙されちゃ駄目ハクビシン

立ち見でも会いたい推しにコンサート

作品の壁のスペース淋しげに

お父さん二言目には片付けて

ひよこ

嬉しいないよいよ町のカラオケへ

洋館の近江八幡秋ツアー

どの国の子にも幸せ来るように

マッチング昔お見合い今アプリ

純一

検査無事晴ればれとして居酒屋へ

酒飲めば月はおぼろに兎跳ね

愛犬が鼻鳴らし聞く俺の愚痴

理論上過去と未来は同時刻

正清

時間までやっぱのびたりちぢんだり

生きてても死んでも未来やってくる

やせガエル精一杯のびよんの幅

遠くまで行かなくなつて奈良京都

郁子

親しんだ終の住処にいつまでも

年賀状年ごとに去る友の数

ショウヘイの掴んだ青い鳥何羽

ミサイルの飛ぶ空他人事ではない  
流行語半分以上分らない  
モラルより強さ求めるアメリカン  
大银杏結えないままで二度賜杯

健一

鋭角と言う思考のみ天を突く  
骨になるまで猛省を強いられる  
好奇心白いページのほしいまま  
内心はちよつと機嫌のいい火宅

ちさと

ここ一番聞かせどころで船を漕ぐ  
母と子には父が入れぬ秘密基地  
消費期限切れた二人が充電中  
わたしの旬過ぎたけれどもいつだった

乃り子

核コロナ里には熊が家に妻  
物価高三割引きか日に二食  
マドンナがガハハと笑うクラス会  
悪いのはみんな私と円く生き

義雄

大谷が紙面にのらぬ日はわずか  
猛暑すぎ秋は迷子で雪日より  
睡眠を邪魔して出来た句が一つ  
今スマホ昔井戸辺で会議する

基弘

あの和服きょう色違い砂かぶり  
選挙戦世論に負けたマスメディア  
戦争は民主が始め共和幕  
誰が言ったか民主の地盤総崩れ

千楽

勉強会 お題「よろこび」互選  
3八十でも何でもできるまた明日

数字は票数  
えいじ

千楽 基弘 ひよこ

人生は悲喜こももともつかの間に

純一

千楽 あき朋 ひよこ  
思い出を積んで重ねて傘寿喜寿

郁子

アキラ ミチ えいじ  
アナログ派言葉の海に喜々として

千楽

郁子 健一 基弘

仲間に会える十年ぶりのクラス会

健一

郁子 基弘 あき朋

4誕生日はしゃいでケーキ潰した子

きよな

アキラ ミチ〇 ひよこ

5怪我をしてそつと出されたキズテープ 基弘

千楽〇 健一〇 アキラ

お帰りと猫玄関に跳んでくる

健一

郁子 千楽〇 基弘 ミチ

川柳を習って豊かわが余生

純一

基弘〇 ひよこ あき朋〇

失敗を重ね喜び倍になる

基弘

千楽 健一 ひよこ〇 えいじ

秀6 ささやかなよろこびあつて家族です ひよこ

郁子〇 アキラ〇 えいじ〇

勉強会 お題「よろこび」奥村義雄選

佳 アナログ派言葉の海に喜々として

千楽

失敗を重ね喜び倍になる

基弘

怪我をしてそつと出されたキズテープ

基弘

秀 家族みな元気に年が越せそう

アキラ

今月の推薦十句 八木哲子選

負けおしみ言えば本気のグチになる

正清

本気の嘘真実よりも重み持つ

英二

二つ目に手を出しもめる子だくさん

えいじ

二度寝する布団の温さ日曜日

きよな

何事も足して二で割る処世術

英二

仔を囲み進むサバンナ群れの知恵

ミチ

アーウーで通した首相いた昭和

アキラ

当選し禊すんだとうやむやに

基弘

庭の菊手折って夫の墓参り

きよな

愛犬が鼻鳴らし聞く俺の愚痴

純一

十二月十四日(土) 十五時投句〆切 誌上句会  
「満足」英二 「やれやれ」(共選) 郁子 哲子  
「薬」(連記) 基弘 「当たる」幸男 各二句  
自由吟アキラ 四句 「推薦十句」えいじ